

レディオヘッドのグリーンなツアー

カーボンフリーな世界で Keep on rocking! (FoE 英国のインタビューより)

世界中で知られているロックバンドのツアーマネージャーの仕事と言えば、1回1回のコンサートでできる限り大きなインパクトを与えることでしょう。しかし、レディオヘッド(Radiohead)のプロダクション・マネージャー、リチャード・ヤングは正反対の問題を抱えています。彼はこれまで、レディオヘッドが世界ツアーを行うたびにできるだけ少ない影響を抑えるように努力してきたのです...環境に対して。

「これもみんな(レディオヘッドのフロントマンである)トム・ヨークが、The Big Ask キャンペーンに関わったことから始まったんだ」とヤングは言います。「トムは、ツアーをしたり、大勢の聴衆に生の音楽を聞かせたりする活動が、CO2 排出という観点からはマイナスの影響を与えるということに気がついたんだ。それで、何かしたいと思ったんだ。」

こうしてレディオヘッドは、バンドのツアー活動に注目し、すっきりとグリーンに活動できる方法を教えてくれるベスト・フット・フォワード(Best Foot Forward)という排出分析の専門家に報告書を作るように依頼しました。その報告書は、ファンが郊外で行われるコンサート会場に車で行くことが最も環境に負荷を与えることを明らかにしました。この情報だけでも、バンドはツアーのあり方を変えました。

ヤングは言います。「ヨーロッパの会場のほとんどは、公共交通でアクセスできる市街地にあるところを選んだんだ。」

レディオヘッドは、車の相乗りや公共交通の利用をすすめるための情報を提供するウェブサイトを始めました。さらには、「車は王様」とまで言われているアメリカでさえも、複数の人々を1台の車に同乗させて来た人は、無料で駐車場に停めることができるというインセンティブによって会場やプロモーターに相乗りを奨励させました。

ヤングは、レディオヘッドが、ファンに対して訴えかけと同様に、自分たち自身も輸送時に出す排出量を減らすことに真剣に取り組んでいると明らかにしています。

「昔は、20 トンもの機材を持って大陸間を飛行機で渡ることだって、レディオヘッドにとってはごく普通のことだったんだ」と彼は言います。「でも、それは明らかに大気中に二酸化炭素を撒き散らしているんだ。だから『飛行機は一切使わないようにしよう』ってことにしたんだ。」

輸送に船を使うこと、機材を二重にすることを徹底し、レディオヘッドはツアーから出す二酸化炭素の量を、通常に比べてごく少ない量へと激減させました。ヤングは「本当に必要な最低限のもの、基本的にはギター12本とノートパソコン2台くらいかな、それだけは飛行機で運んでいるよ」と言います。

ステージ上でも削減の努力は続きました。レディオヘッドの公演では、一般的に使われていて電気を浪費する白熱灯の代わりに、超高効率なLEDを照明に使用していて、革新的かつグリーンな特徴と言えます。もちろんエネルギー消費量を大きく節約したからと言って、レディオヘッドのロックパフォーマンスの素晴らしさが減るわけではないことは、誰の目にも明らかです。

(翻訳: FoE Japan 2008年9月16日)